



## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月8日

上場会社名 株式会社モスフードサービス 上場取引所 東  
コード番号 8153 URL <https://www.mos.co.jp/company/>  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 中村 栄輔  
問合せ先責任者（役職名） 執行役員（氏名） 川越 勉（TEL）03-5487-7371  
経営サポート本部長  
半期報告書提出予定日 2024年11月8日 配当支払開始予定日 2024年12月9日  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有（証券アナリスト、機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	47,578	3.1	2,711	14.5	2,848	11.0	1,782	18.8
2024年3月期中間期	46,138	11.3	2,368	175.6	2,565	160.2	1,500	98.5

（注）包括利益 2025年3月期中間期 2,128百万円（△34.7%） 2024年3月期中間期 3,257百万円（93.0%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	57.76	—
2024年3月期中間期	48.64	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	80,817	53,784	66.2
2024年3月期	79,711	52,086	65.0

（参考）自己資本 2025年3月期中間期 53,508百万円 2024年3月期 51,830百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	14.00	—	14.00	28.00
2025年3月期	—	15.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	15.00	30.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	94,000	1.0	4,250	1.5	4,450	1.3	2,650	3.0	85.91

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期中間期	32,009,910株	2024年3月期	32,009,910株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	1,157,134株	2024年3月期	1,161,554株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年3月期中間期	30,850,829株	2024年3月期中間期	30,842,801株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料5ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 中間連結貸借対照表 .....	6
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	8
中間連結損益計算書 .....	8
中間連結包括利益計算書 .....	9
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	12
(セグメント情報等の注記) .....	13

## 1. 経営成績等の概況

## (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間においては、雇用・所得環境の改善による個人消費の持ち直しや、インバウンド需要の拡大により外食需要の回復が見られました。一方で、不安定な国際情勢による景気減速リスクに加え、原材料およびエネルギー価格の高止まりや為替変動による調達費用の上昇など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、基幹事業である国内モスバーガー事業においては、消費の二極化に対応した商品として、プレミアム価格帯の新たな定番商品や期間限定商品を発売いたしました。レギュラー価格帯を含めた価格のグラデーション化によりお客様の選択肢を増やすことで、より幅広い層の顧客の獲得に繋がりました。さらに、全社的に費用対効果を意識することで販管費の抑制を徹底したほか、在庫回転率向上による保管費の減少、移送の効率化などコストの抑制に取り組みました。海外事業では、既存店の強化に努めるとともに、不採算店舗の閉店や価格改定、本社経費の抑制など収益性の改善に取り組みました。

また、ESGの観点から当社グループのマテリアリティ(重要課題)を、①食と健康、②店舗と地域コミュニティ、③人材育成と支援、④地球環境の4つに定め、事業活動を通じて社会に向けた価値創造に取り組んでおります。

これらの結果、当中間連結会計期間の連結業績は、売上高が475億78百万円(前年同期比3.1%増)、営業利益27億11百万円(同14.5%増)、経常利益28億48百万円(同11.0%増)となり、最終損益は主に税金費用が減少したこと等により、親会社株主に帰属する中間純利益17億82百万円(同18.8%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

## &lt;国内モスバーガー事業&gt;

国内モスバーガー事業では、お客様のニーズに合わせた商品開発、マーケティング展開に加え、お客様との接点の量と質を徹底的に強化し、地域に密着した店舗運営を推進しております。

当中間連結会計期間においては、定番商品となる「新とびきりチーズ～北海道チーズ～」を発売し好評をいただきました。また、昨年テレビ番組で取り上げられたことによる需要増の反動があったものの、既存店の売上高、客単価、客数は前年を上回りました。

モスバーガー既存店および全店実績(2024年4月～9月) (前年同期比)

既存店売上高	既存店客数	既存店客単価	全店売上高
101.6%	100.1%	101.5%	103.1%

## ① 商品・マーケティング施策

当年度は、ブランドスローガンとして「モスしかできないことしよう。」を掲げ、昨年度に続き、ブランドキャラクターとして女優・永野芽郁さんを起用したプロモーションを展開しております。

当中間連結会計期間においては、日本の良さを存分に楽しめる高付加価値バーガーとして、国産牛100%使用のパーティを使用した“新とびきり”シリーズを販売し好評をいただきました。さらに、夏の定番商品としてこだわりのチーズソースをふんだんにかけた、真っ白なビジュアルが目を引く「白いモスバーガー」を販売したほか、月見商戦で盛り上がる9月には季節定番の「月見フォカッチャ」と“裏月見”を訴求した「メンチカツフォカッチャ」を販売いたしました。

## ② 店舗施策

居心地の良い店舗空間づくりを推進したほか、カフェ需要に対応してドリンクやスイーツを充実させました。さらに、店舗スタッフの業務手順を減らし、焼成などオペレーションの時間短縮が可能な厨房機器を導入することで生産性を向上させ、お客様への商品提供時間の短縮に取り組みました。また、10月以降は店舗看板を視認性の高いシンプルなデザインに順次リニューアルしてまいります。

出退店実績(2024年9月末時点) (2024年3月末比)

出店	退店	店舗数	増減
11	9	1,315	+2

## ③ デジタル技術の活用

デジタル技術を活用し、C X (お客様の体験価値) とE X (社員や店舗メンバーの働きがい) の向上を目指しております。お客様の利便性向上に向けた取り組みとしては、レジに並ばず着席して注文できる「お席で注文」を全店に導入いたしました。さらに、将来の人手不足を見据えた対策として「フルセルフレジ」の導入やデジタルサイネージを活用したドライブスルーでの注文時間の短縮に取り組みました。

## ④ 新たな事業展開

マーチャンダイジング事業では、E Cサイト「モスライスバーガー専門店」において、海外の料理をヒントに開発した新商品を販売し、商品ラインナップの充実を図っております。

今後も取り組みを拡大し、ブランドの価値向上とともに新たな収益源へと育ててまいります。

## ⑤ E S Gへの取り組み

モスグループの各事業を通じて社会課題の解決に貢献するために、環境・社会・ガバナンス (E S G) の観点から4つのマテリアリティ (重要課題) を特定し、サステナビリティ経営を通じてさらなる企業価値の向上を推進しております。

## 主な取り組み (2024年4月～9月)

「こどもス」プロジェクトを開始	2024年5月から全国のモスバーガー店舗で、お子さま連れのお客様がモスバーガー店舗でのひとときをこれまで以上に楽しんでいただくための子育て応援施策「こどもス」プロジェクトを開始しました。
静岡、長野のモスファームで温室効果ガス排出量の削減貢献率20%を達成	温室効果ガス排出量を削減した野菜の生産を積極的に推進しております。「モスファームすずなり」(静岡県)と「モスファーム信州」(長野県)で生産するレタスが温室効果ガスの排出量を地域の標準的な農法と比べて20%以上削減していることが認められ、農林水産省が推進している『温室効果ガス削減の「見える化」ラベル』(愛称:みえるらべる)の星3つを取得しました。
ドリンクスタンド「Stand by Mos」をオープン	主に規格外品などで廃棄されてしまう野菜を使用したドリンクを販売する、新業態のドリンクスタンド「Stand by Mos」(スタンドバイモス)を、東武東上線「池袋駅」の改札内に2024年8月にオープンしました。
「新潟MOSごと美術館2024」の作品をカップデザインに初採用	障がいのある方々が描いたアート作品を店舗に展示する「新潟MOSごと美術館2024」の作品の中から、新潟県佐渡市在住の前田優作さん作『Fire works』及び『秋桜と朱鷺』をコールドドリンク紙カップのデザインに採用し、新潟県の全店舗と原宿表参道店(東京都渋谷区)にて、2024年9月中旬から数量限定で提供しました。
音楽レーベル“MOS RECORDS”を設立	2024年4月から全国のモスバーガー店舗で働くスタッフ(社員・キャスト)を対象に、次世代アーティスト・クリエイターを発掘・応援・共創する“MOS RECORDS”(モスレコーズ)プロジェクトを開始し、働く環境の魅力化と人材確保に取り組みました。9月には100名もの応募者が参加した第1回オーディションにて選ばれたアーティスト(Lui)のデビューが決定しました。

以上の事業活動の結果、国内モスバーガー事業の売上高は377億46百万円(前年同期比3.3%増)となり、セグメント利益(営業利益)は34億63百万円(前年同期比0.6%増)となりました。

## &lt;海外事業&gt;

海外事業では、日本の食文化を大切にしたい定番商品に加え、現地の嗜好を取り入れたローカライズ商品を販売するなど、地元の方にも愛される地域に根差した店舗展開を進めております。

さらに、商圈の変化および人流の変化に対応して、不採算店舗の閉店や既存店の改装、本社経費の抑制など収益性改善に取り組みました。全体では15店舗減少し441店舗となりました。

## 海外店舗数増減

国・地域名	2023年12月末時点	2024年6月末時点	増減数
台湾	305	299	△6
香港	49	49	±0
シンガポール	42	41	△1
タイ	29	28	△1
韓国	14	12	△2
フィリピン	8	7	△1
オーストラリア	3	3	±0
中国	6	2	△4
合計	456	441	△15

※海外事業に属する関係会社の会計期間は2024年1月から6月であるため、同期間の情報を記載しております。

※中国の店舗は2024年7月をもって、オーストラリアの店舗は2024年9月をもって全店閉店しております。

以上の事業活動の結果、海外事業の売上高は83億99百万円(前年同期比2.5%増)、前年度の価格改定等で原価率が改善したこと等によりセグメント利益(営業利益)は92百万円(前年同期はセグメント損失(営業損失)1億48百万円)となりました。

## &lt;その他飲食事業&gt;

その他飲食事業は、不採算店舗の整理や商品力の強化、サービス品質の向上を図り、収益力の改善を進めております。

## その他飲食事業概要

(2024年9月末時点)

事業	事業の内容	店舗数
マザーリーフ	スリランカの茶園直送の紅茶とワッフルを提供する紅茶専門店	4
マザーリーフ ティースタイル	新しい紅茶のスタイルを提案するセルフスタイルカフェ	7
モスト	モスバーガーとミスタードーナツとのコラボレーションショップ	1
モスプレミアム	グルメバーガーとお酒が楽しめるフルサービスレストラン	2
カフェ 山と海と太陽	バリエーション豊かなドリンクとハンバーガーを提供するカフェ店舗	2
あえん	四季折々の旬菜料理を提供する和風レストラン	4
玄米食堂あえん	こだわりの玄米定食をメインにした食堂タイプの「あえん」	2
	合計	22

以上の事業活動の結果、その他飲食事業の売上高は8億83百万円(前年同期比4.2%減)、セグメント損失(営業損失)は45百万円(前年同期比3百万円の損失減)となりました。

## &lt;その他の事業&gt;

連結子会社の株式会社エム・エイチ・エスは衛生、株式会社モスクレジットは金融・保険・設備レンタル、株式会社モスシャインはグループ内業務のアウトソーシング等により主に国内モスバーガー事業やその他飲食事業を支援しております。

設備レンタルの増加等により、その他の事業の売上高は5億48百万円(前年同期比9.7%増)、セグメント利益(営業利益)は2億58百万円(前年同期比25.4%増)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ11億5百万円増加し、808億17百万円となりました。流動資産は前連結会計年度末に比べ19億83百万円増加し、固定資産は8億77百万円減少しております。流動資産が増加した主な理由は、季節変動により棚卸資産が増加したこと、売上増加により売掛金が増加したこと及びキャッシュレス決済増加により未収入金が増加したことによるものであります。固定資産が減少した主な理由は、減損損失計上により有形固定資産が減少したこと及び時価の変動等によって投資有価証券が減少したことによるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ5億92百万円減少し、270億32百万円となりました。この減少の主な理由は、仕入の増加に伴い買掛金が増加した一方で、未払金、未払法人税等、リース債務及び繰延税金負債が減少したことによるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ16億98百万円増加し、537億84百万円となりました。その結果、自己資本比率は前連結会計年度末65.0%から当中間連結会計期間末は66.2%と1.2%増加しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月15日発表の通期連結業績予想から変更はございません。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,182	23,193
受取手形、売掛金及び契約資産	6,848	7,509
有価証券	389	376
商品及び製品	4,185	4,824
原材料及び貯蔵品	547	747
未収入金	4,204	4,723
その他	432	399
貸倒引当金	△16	△17
流動資産合計	39,773	41,757
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	21,844	23,702
減価償却累計額	△13,617	△15,750
建物及び構築物(純額)	8,226	7,951
機械装置及び運搬具	366	439
減価償却累計額	△244	△290
機械装置及び運搬具(純額)	121	148
工具、器具及び備品	9,986	10,371
減価償却累計額	△6,261	△6,790
工具、器具及び備品(純額)	3,725	3,581
土地	1,043	1,061
建設仮勘定	187	199
有形固定資産合計	13,305	12,942
無形固定資産		
その他	2,350	2,206
無形固定資産合計	2,350	2,206
投資その他の資産		
投資有価証券	15,267	15,051
長期貸付金	1,363	1,232
差入保証金	5,150	5,186
繰延税金資産	77	69
その他	2,495	2,413
貸倒引当金	△54	△25
投資損失引当金	△19	△15
投資その他の資産合計	24,281	23,911
固定資産合計	39,937	39,060
資産合計	79,711	80,817

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,650	6,346
短期借入金	92	445
リース債務	2,052	2,148
未払金	5,555	5,368
未払法人税等	1,110	938
賞与引当金	494	516
ポイント引当金	88	91
資産除去債務	53	33
その他	3,575	2,967
流動負債合計	18,673	18,856
固定負債		
長期借入金	2,899	2,534
リース債務	2,136	1,911
繰延税金負債	596	348
役員株式給付引当金	—	8
株式給付引当金	211	213
退職給付に係る負債	316	294
資産除去債務	905	964
その他	1,886	1,900
固定負債合計	8,952	8,176
負債合計	27,625	27,032
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,412	11,412
資本剰余金	11,058	11,118
利益剰余金	26,168	27,513
自己株式	△1,750	△1,797
株主資本合計	46,889	48,247
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,885	2,663
為替換算調整勘定	2,031	2,586
退職給付に係る調整累計額	23	11
その他の包括利益累計額合計	4,940	5,261
非支配株主持分	256	276
純資産合計	52,086	53,784
負債純資産合計	79,711	80,817

## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	46,138	47,578
売上原価	24,025	24,743
売上総利益	22,112	22,834
販売費及び一般管理費	19,744	20,123
営業利益	2,368	2,711
営業外収益		
受取利息	43	46
受取配当金	44	57
設備賃貸料	172	116
持分法による投資利益	43	35
雑収入	161	164
営業外収益合計	466	419
営業外費用		
支払利息	75	91
設備賃貸費用	112	88
雑支出	80	102
営業外費用合計	268	282
経常利益	2,565	2,848
特別利益		
固定資産売却益	97	125
投資有価証券売却益	—	0
関係会社出資金売却益	—	1
特別利益合計	97	126
特別損失		
固定資産売却損	1	—
固定資産除却損	19	28
減損損失	208	387
投資有価証券評価損	4	17
投資損失引当金繰入額	0	1
特別損失合計	235	435
税金等調整前中間純利益	2,426	2,539
法人税、住民税及び事業税	941	812
法人税等調整額	△14	△62
法人税等合計	927	749
中間純利益	1,499	1,789
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失(△)	△0	7
親会社株主に帰属する中間純利益	1,500	1,782

## 中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	1,499	1,789
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	749	△397
為替換算調整勘定	321	362
退職給付に係る調整額	△17	△13
持分法適用会社に対する持分相当額	705	387
その他の包括利益合計	1,758	338
中間包括利益	3,257	2,128
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	3,240	2,102
非支配株主に係る中間包括利益	17	25

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	2,426	2,539
減価償却費	2,436	2,250
減損損失	208	387
貸倒引当金の増減額(△は減少)	4	△0
投資損失引当金の増減額(△は減少)	△13	△3
賞与引当金の増減額(△は減少)	△23	19
ポイント引当金の増減額(△は減少)	2	2
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	1	8
株式給付引当金の増減額(△は減少)	1	2
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△42	△40
受取利息及び受取配当金	△88	△103
支払利息	75	91
持分法による投資損益(△は益)	△43	△35
固定資産除売却損益(△は益)	△75	△96
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△0
売上債権の増減額(△は増加)	△510	△597
棚卸資産の増減額(△は増加)	△335	△712
仕入債務の増減額(△は減少)	250	623
その他	168	△1,505
小計	4,443	2,830
利息及び配当金の受取額	185	178
利息の支払額	△75	△91
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	41	△748
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,595	2,168
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△2,190	△832
有形固定資産の売却による収入	233	135
無形固定資産の取得による支出	△187	△205
貸付けによる支出	△69	△25
貸付金の回収による収入	212	154
投資有価証券の取得による支出	—	△267
投資有価証券の売却及び償還による収入	438	264
定期預金の預入による支出	△1	—
その他	146	99
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,418	△677

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	88	333
長期借入金の返済による支出	△366	△367
自己株式の取得による支出	△0	△99
自己株式の売却による収入	5	106
配当金の支払額	△437	△438
リース債務の返済による支出	△1,151	△1,197
その他	9	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,851	△1,658
現金及び現金同等物に係る換算差額	76	190
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,400	22
現金及び現金同等物の期首残高	19,031	23,155
現金及び現金同等物の中間期末残高	20,432	23,178

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

## I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 モスバーガー 事業	海外事業	その他飲食 事業	その他の 事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	36,524	8,191	922	500	46,138	—	46,138
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	78	70	60	687	895	△895	—
計	36,602	8,261	982	1,187	47,033	△895	46,138
セグメント利益又は損失(△)	3,441	△148	△49	205	3,449	△1,081	2,368

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,081百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,058百万円を含んでおります。全社費用の主なもの、提出会社の経営企画・経理部門等の経営管理に係る部門の費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「国内モスバーガー事業」セグメントにおいて20百万円、「海外事業」セグメントにおいて188百万円の減損損失を計上しております。

## II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 モスバーガー 事業	海外事業	その他飲食 事業	その他の 事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	37,746	8,399	883	548	47,578	—	47,578
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	89	1	61	734	887	△887	—
計	37,836	8,400	945	1,283	48,465	△887	47,578
セグメント利益又は損失(△)	3,463	92	△45	258	3,768	△1,057	2,711

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,057百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,032百万円を含んでおります。全社費用の主なもの、提出会社の経営企画・経理部門等の経営管理に係る部門の費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「国内モスバーガー事業」セグメントにおいて53百万円、「海外事業」セグメントにおいて334百万円の減損損失を計上しております。